

いばきた

デザイン プロジェクト レポート

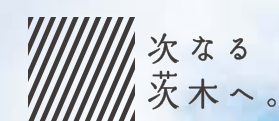
IBA-KITA
DESIGN PROJECT
REPORT

01

2018 / 11



お問い合わせ
茨木市 都市整備部 北部整備推進課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13
電話：072 (620) 1609
ファックス：072 (620) 1730
メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp



茨木市北部地域に広がる豊かな自然と里山の風景。写真は銭原地区の美しい棚田。

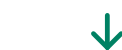
課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。

プロジェクトチーム

大学、専門識者、クリエイターをはじめ、地元地域の方々や北部地域で活動する団体と連携を深め、協働の体制をつくる

北部地域と密接につながり
フィールドワーク、取材、編集などの活動を行う

活動を通じてプロジェクトの「仲間」をつくっていく



課題解決に向けて
みんなで意見やアイデアを出し合える「場」をつくる

- 地域課題の「見える化」を行い、みんなで共有する
- 歴史、文化をはじめ、自然環境、人々の暮らしなど地域資源や魅力を再発掘していく
- 北部地域の未来図を一緒につくっていく

過程と成果を
情報発信 <> 情報共有

北部地域で暮らしているの方々

市内外で活動しているの方々

茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができる「仕組み」をデザインしていきます。



権内水路北広場にて、大阪大学工学部の学生たちが、安威川上流漁業協同組合 代表理事組合長 角野一雄さんにインタビュー。

大阪大学工学部の学生が「車作」でフィールドワークを行いました。

茨木市北部整備推進課が、新たにスタートさせた取り組み「いばきたデザインプロジェクト」は、茨木市北部の地域資源、魅力を掘り起こし、地元と市内外の人たちが一緒になって、デザインによる課題解決と価値創出を目指していきます。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域の学生とチームを組んで実施された第一回フィールドワークでは、安威川上流漁業協同組合 代表理事組合長 角野一雄さんを訪ねて車作へ。地域の歴史、人々の暮らし、魅力についてお話を伺いしたり、下音羽川の渓流や権内水路、集落や景観など、車作の見どころを案内していただきました。プロジェクトチームは、茨木市北部のさまざまな地域での活動を継続していきます。



車作地区を一望できる高台に案内していただきました。その後は、みんなで集落を探索！



ゴンゴンファクトリーから下音羽川渓流へ。市街地から車に乗って30分ほどで大自然を体感できる神秘的な空間。一同のテンションも上がります。



過去から現在に至る歴史や文化を読み解き、地域資源を活かした新たなまちづくりのストーリーを再編集していく。

どのような地域にも、脈々と続く歴史、培われた文化があり、気候や地形などの自然環境、経済や産業などの社会環境と関係しあひながら固有のコミュニティを形成しています。しかし、これらは決して恒久的なものではなく、時代とともに変遷を繰り返していきます。地域づくりに取り組んでいく際には、単なる発展を目指すのではなく、過去から現在への連続性を見据え、衰退あるいは見過ごされてしまった地域資源の価値を読み解き、もう一度スポットを当て、それらを活かした新たなまちづくりのストーリーを再編集していくことが重要です。いばきたデザインプロジェクトでは、学生とともに地域資源の価値を読み解くためのフィールドワークをスタートさせました。地域に関する資料の収集と分析、資源データベースづくりをはじめ、地元で暮らしている方々への取材活動などを通じて、あらゆる角度から地域の可能性を探求していきます。そこから導き出される、新たな発見や方法をプロジェクトチームと共有し、北部地域の課題解決へとつなげていきたいと考えています。

松本邦彦（まつもとくにひこ）／
大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 助教
1981年大阪府生まれ、茨木高校出身。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。2009年より株式会社スペースビジョン研究所勤務を経て、2013年より現職。研究分野は、景観保全、文化的景観の保存と活用に関する研究や歴史まちづくり。



摂南大学経営学部の学生たちと見山の郷がコラボレーションします。

いばきたデザインプロジェクトでは、摂南大学経営学部との協働による見山の郷のブランディングを開始します。北部地域のランドマークとして認知度が高く、市内外からの集客拠点でもある見山の郷のさらなる魅力、価値を引き出し、マーケティングや商品開発、新たな仕組みづくりをバックアップしていきます。初の合同ミーティングでは、見山の郷交流施設組合 代表理事 原田さんより、郷の成り立ち、農家の方々や施設での取り組み、現状の課題点などをレクチャーしていただきました。どのような展開になるのか、とても楽しみです！！



地域ブランディングやマーケティングを数多く手掛ける、摂南大学経営学部 教授 鶴坂貴恵さんとゼミの学生たち。摂南大学と見山の郷のチームづくりがスタートしました。



見山の郷スタッフ（左から）伊藤充志さん、大神祥子さん、原田忠節さん。これからも、より連携を深めていながら、一緒になってプロジェクトを進めていきたいと思ひます。

